

此社の中を歩き廻つて……アセンスの或美人が或若い男に惚れてゐるが、男は女を見下
げきつてゐる……その男を探して、それを目に塗つてやれ。が、目を開くや否や、其婦人
を見るやうにしくちやいけなないぞ。アセンス服を被てゐる男がそれだ。よく注意してや
んなよ。女よりも男の方がずツと夢中になるやうに。それから一番鶏の啼く前に予の許へ
来るんだぞ。

バック

大丈夫です、かしこまりました。

左右へ別れて入る。

第二場 森林の他の方面

チテロニヤが其従者の妖精群をつれて出る。

チテロ

さア、輪踏をお始め、妖精節をお唱ひ。それが済んだら、二十秒ばかりの間仕事に
行ツといて。誰れかは麝香薔薇の蜈蚣を取つておやり。誰れかは蝙蝠退治に行つて、彼奴
の柔革のやうな翼を取つて来てくれ、豆妖精共の服を製へてやりたいから。それから誰れ

か往つて彼の喧しい鼻めを逐ツとくれ、毎晩フー〜ホー〜いつて、我家の小奴共を嚇
していけないから。さア、わたしが眠附くまで歌を唱つて、それから仕事をし。さうし
てわたしを休ませとくれ。

此間に妖精らの舞師があつて、それが濟むと第一の妖精が音頭を取り
て下の歌を唱ふ、其一部は獨唱、其他は妖精群全體の齊唱、チテロニ
ヤは四方に美しき種々の草が咲亂れ、忍冬などが羅ひつきて、おのづ
からなる四阿をなしてゐる小高き處の花土手に凭れかゝりて、徐々に
眠に就かうとする。

(唄)

第一妖

ぼつ〜模様の、舌が二つのお蛇さん、

刺々だらけの蝟、来るな〜。

蝶蠅よ〜、足なし刺蝟よ、悪戯すな。

来るなよ〜、お仙女さまのお傍へは。

(齊唱)

妙音鳥よ、節面白く、

歌へ〜、ねんねと唄を。

ラ、ラ、ラ、ラ、ピー！

ラ、ラ、ラ、ラ、ピー！

此方の大切なお仙女さまにや

恙も、障りも、魔も附かぬ。

そんなら御寝なれ、ねんねこせい。

第一妖

巢造り蜘蛛めら、こゝへは来るな。

脚長蜘蛛めよ、彼方行け、彼方行け。

黒甲蟲、傍へも寄るな。

毛蟲も、蛞蝓も、悪戯すな。

(齊唱)

妙音鳥よ、節面白く……

第二妖

さア、彼方へ！ もうこれで可いの。一人だけ離れて見張をするんだ、

妖精ら皆々入る。チテーニヤ眠る。

オペロン出て来りて、チテーニヤの傍へ立寄る。

オペロ

何でも目の覚めた時に見る物を(と言ひつゝ花の液をチテーニヤの臉上へ絞りかけて)眞實に戀しいこと
思ひ込むんだよ、一生懸命にそれに戀ひ焦れるんだよ。豹でも、山猫でも、熊でも、野猪
でも、何でもかても、目の覚めた途端に見りや可愛く見えるんだぜ。何か汚らしいものが
来た時に起きろ。

オペロン入る。

ライサンダーとハーミヤと出て来る。

ハーミヤさん、森林の中をうろついたので、貴女大變に術なさうですねえ。實はわたし路
を忘れツちまつたのです。ねえ、貴女が可けりや、こゝで休んで、夜の明けのを待ちま
せうよ。

ハーミ さうしませう。貴郎も寢處をお捜しなさい、わたしは此土手を枕にしますから。

ライサ それを二人の枕にさせようよ。ね、心の臓も一つ、寢床も一つ、胸も一つ、誓約も一つ。

ハーミ いゝえ、不可ません。どうぞ、後生ですから、もつと其方で臥て下さい、そんなに近いと
こで臥ちやいけません。

ライサ

あや、如何しようといふのでもないんですよ！ 愛の相語るや互ひに能く相解すですよ。
わたしは只二人の心の臓と心の臓とは結合されてゐる、二人の胸は一つの誓で繋ぎ合され